



2021年8月3日

各位

会社名 株式会社ヨコオ
代表者名 代表取締役兼執行役員社長 徳間孝之
(コード番号6800 東証第1部)
問合せ先 取締役兼執行役員専務 深川浩一
(TEL 03-3916-3111)

連結業績予想の修正に関するお知らせ

2021年5月14日に公表しました2022年3月期第2四半期連結累計期間の連結業績予想につきまして、下記のとおり修正いたしますので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想修正の内容

第2四半期連結累計期間(2021年4月1日～9月30日)

	前回発表予想(A) (2021年5月14日 公表)	今回修正予想 (B)	増減額 (B-A)	増減率(%)	(ご参考) 前年同四半期累計実績 (2020年4月1日～9月30日)
売上高(百万円)	31,500	32,000	+500	+1.6	27,111
車載通信機器	20,300	—	—	—	15,474
回路検査用コネクタ	6,700	7,200	+500	+7.5	6,828
無線通信機器	4,500	—	—	—	4,808
営業利益(百万円)	2,200	2,400	+200	+9.1	2,049
経常利益(百万円)	1,650	1,850	+200	+12.1	1,716
親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	1,200	1,350	+150	+12.5	1,272
1株当たり四半期純利益 (円銭)	54.44	58.36	—	—	62.69

2. 修正の理由

売上高につきましては、第2四半期において、回路検査用コネクタセグメントの半導体後工程検査用ソケット等の受注増及び半導体前工程検査用ターンキービジネスの前倒し受注が見込まれることから、上記1. のとおり上方修正いたします。

各利益につきましては、物流費の高騰及び原材料価格の上昇により車載通信機器セグメントで利益率低下が見込まれる一方で、回路検査用コネクタセグメントの増収及び円安効果による増益などを勘案し、上記1. のとおり上方修正いたします。

なお、経常利益につきましては、想定為替レートを本年8月以降当期末まで1米ドル=105円として為替差損550百万円(前予想と同様)を見込んでおります。

3. 通期業績予想について

売上高につきましては、下期において回路検査用コネクタセグメントで当初見込んでいた新規案件獲得の進捗を考慮し、据え置きます。

各利益につきましては、上期と同様に車載通信機器セグメントで利益率改善の遅れが見込まれる一方で、回路検査用コネクタセグメントにおける利益率上昇などを踏まえて、据え置きます。

なお、経常利益につきましては、想定為替レート 1 米ドル=105 円の下、下期での為替差損益は発生しないものと見込んでおります。

4. 予想の前提となる条件等

2022 年 3 月期の業績見通しにつきましては、予想の前提となる条件を次のとおり想定しております。

- ・新型コロナウイルス感染症は依然として収束の兆しが見えず、予断を許さない状況が続くと予想されますが、生産拠点における感染防止対策を最重点として徹底することにより、これまでどおり安定稼働を継続できるものと想定しております。なお、マレーシア工場につきましては、政府によるロックダウン政策を受けて本年 6 月より 60%稼働で生産を行っており、上期中は続くものと想定しております。
- ・当社の主要市場である自動車市場につきましては、需要が回復傾向にあるものの、世界的な半導体不足及び東南アジアでの感染拡大による自動車メーカーの減産が想定以上に広がりつつあり、当面継続すると見込んでおります。
- ・半導体検査市場につきましては、5G 関連需要の増加の一方で、米中貿易摩擦激化の影響が見込まれます。
- ・携帯通信端末市場につきましては、POS 端末を中心に着実に伸長すると見られ、ウェアラブル端末や産業機器向けの需要も堅調に増加すると見込まれますが、一方で、世界的な半導体不足に伴う減産により一部減殺されるものと想定しております。
- ・先端医療機器市場につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う医療現場の逼迫から不要不急の手術の回避が上期中は続くものの、下期以降は一定程度回復するものと想定しております。

(注) 本資料に記載の予想数値は、公表日現在入手可能な情報に基づき作成しております。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上